

## 【企業動向調査（製造業）概況】

令和2年7月～9月期の企業動向調査（市内製造業102社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は▲20.0ポイントとなりました。

前期調査結果（令和2年4月～6月期：▲53.1ポイント）と比較して33.1ポイント好転しました。自社の景況感については、「変わらない」32.0%、「今はないが、今後好転が見込まれる」と「今はないが、今後悪化が見込まれる」が20.0%、「悪化している」とした企業が14.7%、「好転している」12.0%となっています。前期調査結果と比べ「悪化している」が▲40.9ポイントとなりました。

出張・会食を再開してみて気づいたことはありますかについては、「東京出張は自粛。訪問は自動車で移動、再開したが必要最低限であり、関東方面を中心に、まだお客様も訪問不可となっている、コロナ禍以前の状況に戻るには2～3年かかると感じられた」などの意見がありました。経営上の問題は、「新型コロナの影響が長引いて今後の不安がある、これまでコロナの影響は比較的少なかったが、来年以降急速に受注が減少している、コロナの早い終息を願う」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「電気機械」は0ポイント、「食品」、「金属」、「一般機械」、「木材家具」、「その他業種」はマイナスポイントとなりました。

### 業種別の業況判断前期比D I

食品	▲ 50.0	（前期比：プラス	10.0）
金属	▲ 5.9	（前期比：プラス	41.5）
一般機械	▲ 35.7	（前期比：プラス	42.9）
電気機械	0.0	（前期比：プラス	33.3）
木材家具	▲ 20.0	（前期比：プラス	46.7）
その他業種	▲ 18.8	（前期比：プラス	28.3）

2. 次期予想D I（令和2年10月～12月）

次期予想の平均は▲14.9ポイントで、今期調査結果の平均(▲20.0)より、5.1ポイント上回る予想となりました。

### 業種別の次期予想D I

食品	0.0	（今期比：プラス	50.0）
金属	▲ 29.4	（今期比：マイナス	23.5）
一般機械	▲ 7.1	（今期比：プラス	28.6）
電気機械	15.4	（今期比：プラス	15.4）
木材家具	▲ 20.0	（今期比：プラスマイナス	0.0）
その他業種	▲ 37.5	（今期比：マイナス	18.7）

3. 経営上の主な問題点

「受注の減少」が66.7%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が44.0%、「同業他社との競争激化」が20.0%、「納期の短縮」が18.7%、「技術力の不足」と「原材料・仕入品単価の上昇」が17.3%、「製品販売価格の低下」が14.7%、「労働力不足（量的なもの）」が12.0%、「人員過剰」が9.3%、「金融難」が5.3%、「取引先の海外シフト化」と「為替相場の変動」が1.3%となっております。

# 企業動向調査

## 【令和2年7月～9月期〈3期〉】

### 【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は令和2年7月～9月期〈3期〉の業況について調査した。

### 【調査実施要領】

実施時期 令和2年10月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 102社

回答企業数 75社（回答率 73%）

### 【調査結果】

#### 自社業況判断（D I＝好転－悪化）

前期比：「**好転**」22.7%（前回8.6%）、「**悪化**」42.7%（前回61.7%）という割合でD Iは▲20.0となり、33.1ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」16.0%（前回11.1%）、「**悪化**」64.0%（前回64.2%）という割合でD Iは▲48.0となり、5.1ポイント好転した。

次期予想：「**好転**」16.2%、「**悪化**」31.1%という割合でD Iは▲14.9（前回▲49.4）となり、前期より好転を予想している。

#### 受注引合（D I＝増加－減少）

前期比：「**増加**」21.3%（前回8.8%）、「**減少**」44.0%（前回61.3%）という割合でD Iは▲22.7となり、29.8ポイント増加した。

前年同期比：「**増加**」13.3%（前回13.6%）、「**減少**」65.3%（前回63.0%）という割合でD Iは▲52.0となり、2.6ポイント減少した。

次期予想：「**増加**」18.7%、「**減少**」36.0%という割合でD Iは▲17.3（前回▲49.4）となり、前期より増加を予想している。

#### 生産量（D I＝増加－減少）

前期比：「**増加**」18.9%（前回8.8%）、「**減少**」43.2%（前回61.3%）という割合でD Iは▲24.3となり、28.2ポイント増加した。

前年同期比：「**増加**」13.5%（前回10.0%）、「**減少**」64.9%（前回62.5%）という割合でD Iは▲51.4となり、1.1ポイント増加した。

次期予想：「**増加**」16.2%、「**減少**」32.4%という割合でD Iは▲16.2（前回▲48.8）となり、前期より増加を予想している。

#### 原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前期比：「低下」2.7% (前回11.4%)、「上昇」8.1% (前回10.1%) という割合でD Iは▲5.4となり、6.7ポイント上昇した。

前年同期比：「低下」1.4% (前回10.1%)、「上昇」18.9% (前回22.8%) という割合でD Iは▲17.5となり、4.8ポイント上昇した。

次期予想：「低下」1.4%、「上昇」20.3%という割合でD Iは▲18.9 (前回▲8.9)となり、前期より原材料・仕入品単価の上昇を予想している。

#### 製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」4.1% (前回1.3%)、「低下」8.1% (前回3.8%) という割合でD Iは▲4.0となり、1.5ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」6.8% (前回3.8%)、「低下」9.5% (前回5.0%) という割合でD Iは▲2.7となり、1.5ポイント低下した。

次期予想：「上昇」4.1%、「低下」16.2%という割合でD Iは▲12.1 (前回▲7.5)となり、前期より若干の製品販売価格の低下を予想している。

#### 資金繰り (D I = 好転－悪化)

前期比：「好転」6.7% (前回3.7%)、「悪化」29.3% (前回30.9%) という割合でD Iは▲22.6となり、4.6ポイント好転した。

前年同期比：「好転」9.3% (前回6.2%)、「悪化」42.7% (前回39.5%) という割合でD Iは▲33.4となり、0.1ポイント悪化した。

次期予想：「好転」8.0%、「悪化」24.0%という割合でD Iは▲16.0 (前回▲37.0)となり、前期より資金繰りの好転を予想している。

#### 所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前期比：「増加」8.0% (前回8.9%)、「減少」42.7% (前回48.1%) という割合でD Iは▲34.7となり、4.5ポイント増加した。

前年同期比：「増加」10.7% (前回10.0%)、「減少」56.0% (前回55.0%) という割合でD Iは▲45.3となり、0.3ポイント減少した。

次期予想：「増加」14.7%、「減少」22.7%という割合でD Iは▲8.0 (前回▲36.3)となり、前期より労働時間の増加を予想している。

#### 収益率 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」13.5% (前回6.3%)、「低下」47.3% (前回57.5%) という割合でD Iは▲33.8となり、17.4ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」10.8% (前回7.5%)、「低下」63.5% (前回57.5%) という割合でD Iは▲52.7となり、2.7ポイント低下した。

次期予想：「上昇」9.5%、「低下」37.8%という割合でD Iは▲28.3 (前回▲43.8)となり、前期より収益率の上昇を予想している。

## 経営上の問題点（複数回答）

1位	受注の減少	(→ 66.7%)
2位	人材不足（技術者等質的なもの）	(→ 44.0%)
3位	同業他社との競争激化	(↑ 20.0%)
4位	納期の短縮	(→ 18.7%)
5位	技術力の不足	(↑ 17.3%)
5位	原材料・仕入品単価の上昇	(↓ 17.3%)
7位	製品販売価格の低下	(↑ 14.7%)
8位	労働力不足（量的なもの）	(↓ 12.0%)
9位	人員過剰	(↓ 9.3%)
10位	金融難	(→ 5.3%)
11位	取引先の海外シフト化	(↑ 1.3%)
11位	為替相場の変動	(→ 1.3%)

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし  
「↓」 前回の順位から下降

## 業種別自社業況判断／食品

前期比：「**好転**」 10.0%（前回 10.0%）、「**悪化**」 60.0%（前回 70.0%）という割合で D I は ▲ 50.0 となり、10.0 ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」 10.0%（前回 10.0%）、「**悪化**」 80.0%（前回 80.0%）という割合で D I は ▲ 70.0 となり、前年同期と変わらない。

次期予想：「**好転**」 33.3%、「**悪化**」 33.3%という割合で D I は 0.0（前回 ▲ 50.0）となり、前期より大幅な好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／金属機械

前期比：「**好転**」 23.5%（前回 10.5%）、「**悪化**」 29.4%（前回 57.9%）という割合で D I は ▲ 5.9 となり 41.5 ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」 17.6%（前回 10.5%）、「**悪化**」 58.8%（前回 63.2%）という割合で D I は ▲ 41.2 となり、11.5 ポイント好転した。

次期予想：「**好転**」 11.8%、「**悪化**」 41.2%という割合で D I は ▲ 29.4（前回 ▲ 42.1）となり、前期より好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／一般機械

前期比：「**好転**」 14.3%（前回 0.0%）、「**悪化**」 50.0%（前回 78.6%）という割合で D I は ▲ 35.7 となり、42.9 ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」 0.0%（前回 0.0%）、「**悪化**」 85.7%（前回 92.9%）という割合で D I は ▲ 85.7 となり 7.2 ポイント好転した。

次期予想：「**好転**」 14.3%、「**悪化**」 21.4%という割合で D I は ▲ 7.1（前回 ▲ 64.3）となり、前期より大幅な好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／電気機械

前 期 比：「**好転**」38.5%（前回26.7%）、「**悪化**」38.5%（前回60.0%）という割合でD Iは0.0となり、33.0ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」46.2%（前回26.7%）、「**悪化**」53.8%（前回60.0%）という割合でD Iは▲7.6となり、25.7ポイント好転した。

次 期 予 想：「**好転**」30.8%、「**悪化**」15.4%という割合でD Iは15.4（前回▲46.6）となり、前期より大幅な好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／木材家具

前 期 比：「**好転**」20.0%（前回0.0%）、「**悪化**」40.0%（前回66.7%）という割合でD Iは▲20.0となり、46.7ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」20.0%（前回16.7%）、「**悪化**」40.0%（前回50.0%）という割合でD Iは▲20.0となり、13.3ポイント好転した。

次 期 予 想：「**好転**」0.0%、「**悪化**」20.0%という割合でD Iは▲20.0（前回▲33.3）となり、前期より好転を予想している。

Q10 (1) 日銀松本支店が10月1日に発表した、短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断指数(DI)は、マイナス44で前回調査(6月)より3ポイント上昇しました。また先行きも3ポイント上昇を見込んでいます。このような状況下、自社の業況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」12.0%、「今はないが、今後好転が見込まれる」20.0%、「変わらない」32.0%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」20.0%、「悪化している」14.7%

(2) (1)で「好転している」、または「悪化している」と答えた方にお伺いします。具体的な影響についてご記入ください。

A 「事業所単位では、一部生産品目が巣籠り消費（好）影響もあり、横ばい～微増だが、市外の他事業所（一般小売向製品の生産）が悪化しており、会社全体としての影響がある。」、「新型コロナの影響で売上げが戻らない。」、「取引先の業態が、それほどコロナに影響されていないことが要因。」、「受注増加となりつつありますが、納期が集中してしまい無駄な経費がかかってしまい利益を圧迫する。」、「9月以降受注環境が好転しているが、そのまま上昇するかどうかは世界のコロナ

流行次第。また急激に落ち込む可能性もあり。」「受注量の大幅な減少。」「車載関係の受注が回復している。プレス部品の受注も回復している。」「受注の減少により、臨時休業を実施し、雇用調整助成金を申請しています。」「中国の景気回復。」「半導体の受注が増えてきた。」「リモートワークにより、家にいることが増加したため、食品のインスタント食品が売り上げがいいので、設備投資した為。」等。

Q11 (1)出張または、会食は再開しましたか。

A

1 出張のみ再開	国内のみ	24.0%
	海外含む	1.3%
2 会食のみ再開	人数制限あり	2.7%
	人数制限なし	0.0%
3 両方（出張・会食）行っている	出張：国内のみ	26.7%
	出張：海外含む	0.0%
	会食：人数制限あり	21.3%
	会食：人数制限なし	5.3%
4 両方（出張・会食）行っていない		38.7%

(2) (1) 1～3と答えた方にお伺いします。再開してみて気づいたことはありますか。

A 「交通機関の混雑の無さ、会食場所については自粛前とあまり変化がないこと。」「大人数での移動、会食をしている人は見かけない。出張や食事をしていても安心感はない。（後で心配になる。）」、「人数制限やソーシャルディスタンス、パーティションで仕切るなどを行っているが、会食や飲み会はほとんど知人だけの会なので、全く意味がないと感じている。」「リモート会議の有効性。」「東京出張は自粛。訪問は自動車移動。」「再開したが必要最低限であり、関東方面を中心に、まだお客様も訪問不可となっている。」「コロナ禍以前の状況に戻るには2～3年かかると感じられた。」「首都圏との往来は限定を継続している。」「国内出張者に聞くと新幹線も飛行機も乗客が増えてきている。」「マスク着用を除き、コロナ前に戻りつつある。人の出が多くなってきている。」「消毒・検温を実施している会社様が多く、いまだ面談も不可な取引先様も多くある。」「ここにきて、緊張感が緩んできていると感じております。改めて引き締めると共に、今まで通り予防の徹底、周知に努めたいと思います。」「出張先の都道府県の対応は、まちまちで、工事制限は続く。また、出張者の家族が医療機関勤務である場合、14日間は自宅へ帰れない状況は続いている。」等。

Q12 (1)社内会議の開催方法について

A 「対面式」 52.0%、「ウェブ方式」 2.7%、「対面式とウェブ方式の両方」 25.3%

(2) (1)対面式とウェブ方式と答えた方にお伺いします。どのような会議がウェブ方式の対象ですか。

A 「他部署（県外）との会議。」、「講演会や遠方の客先と打ち合わせ。」、「経営会議と生産会議。」、「ほぼWEB会議、少ないが対面会議もあり。」、「遠方はzoomとチャットワーク。」、「対象人数が多い場合（5人以上）。」、「定例の会議。」、「営業所担当者を交えた会議、ミーティング。」、「東京及びその近県の方との対応はWeb。社内も広い部屋で人数制限、換気必須。」等。

Q13 具体的な問題について

A 「今後の新型コロナウイルスが及ぼす影響。」、「GO TO系やプレミアムチケットのような優遇が工業関連に無いのでとても不満を感じている。」、「後の世界情勢。（コロナとアメリカ大統領選）が心配です。」、「感染者発生時の風評。半導体需要低迷による受注減。」、「これまでコロナの影響は比較的少なかったが、来年以降急速に受注が減少している。」、「今はそんなに売上が落ちていないが、先が不安。」、「コロナの早い終息を願う。」、「営業活動ができない。今後はWEB商談会等の活用をしていく。」、「今後はコロナの影響によるので動向次第。」、「受注、新規案件の減少、人材確保、教育。」、「商品のご紹介がWEBだと伝わりづらく、対面式営業数の減少が売上の減少になっていると思う。」、「東京、埼玉、千葉、神奈川、大阪などからの弊社への訪問は、ひかえていただいている。」、「今後の経済がどのように動いていくのかを注視し、判断していきたいと思います。」、「コロナ対応による工事費増と納期延期。」等。









